

# 日之影町立日之影小学校の学力向上への取組

## 1 学校の概要

### (1) 自然環境

日之影町は、西臼杵郡の東南端に位置し、東は綱の瀬川を隔てて東臼杵郡北方町・北川町に接し、南は北郷村・諸塚村、西は高千穂町、北は大分県の緒方町・佐伯市に接している。町の東西を五ヶ瀬川が貫通し、日之影川をはじめいくつかの支流がこれに合流して深いV字谷を形成し、一大渓谷をなしている。

本校区内の児童も、これらの川沿いや上部台地から通学している。また本校は遠距離通学児童が多いため、全児童の半数近くが、4つの経路のスクールバスを利用している。



〈本校正面玄関〉

### (2) 地域社会

日之影町は、昭和26年1月1日に岩井川村と七折村を合併し、「日之影」として町制を敷いた。学校の統廃合もみられ、本校関係では昭和41年に大人小学校、昭和47年に高松小学校、昭和55年仲組小学校、平成14年小原小学校がそれぞれ本校に統合されている。

各地区では、神楽など古くからの伝統が受け継がれ、恵まれた自然の中で郷土芸能が培われてきた。平成13年度1月には大楠・小崎文化財愛護少年団が結成され、地域の方の指導のもと充実した活動を行っている。

この地域の人々は、人情味豊かで純情素朴である。また、地域の方の学校教育に寄せる熱意と期待が大きく、教育に対する理解・関心・協力は高い。

また、PTA活動や社会教育活動も活発で、多くの実績をあげている。スポーツも盛んで、バレーボールをはじめ、ソフトボール、グランドゴルフなどにも熱心である。



〈見立渓谷〉

## 2 児童の実態

本校の校区は、およそ南北30km、東西8kmと広域で、児童は30近くの小さな地区に散在し、日頃多くの人たちと交流することが少ない。地域での生活はほとんど家族単位である。兄弟、姉妹は3人以上と多く、三世同居家族も半数近くある。児童を取り巻く環境はすばらしく、緑いっぱいの山林や、清く澄み魚釣りも楽しめる溪流があり、四季を通じて楽しんでいる。ただ、都市部と離れていることもあって、自分の特技を生かした学習や文化的な活動に参加する機会が少ない。

本校の児童の特性として、全般的に次のようなことが挙げられる。

- 明るく素直で、落ち着きがある。
- 決められたことには責任をもって取り組み、協力的である。
- 学習に対して意欲的で、進んで発表しようとする児童が多い。
- 漢字や計算など基礎学力の習熟や自主的な宅習に積極的に取り組む。
- 手洗い、歯磨きなど基本的な生活習慣は身に付いているが、個人差がある。
- スポーツ少年団に多数が参加し、積極的に体力の向上に努めている。
- バスや自家用車利用により運動量が少なく、運動を敬遠しがちな児童がいる。
- 学校外での発言や発表に、やや消極的である。

### 3 学力向上に向けた経営方針

#### (1) 学校経営の基本方針

教育基本法並びに教育関係法規に示すところに従い、宮崎県・日之影町の教育基本方針に則り、「たくましいからだ」「豊かな心」「すぐれた知性」を備え、郷土並びに国家社会の発展に寄与し得る望ましい社会人の育成を目指す。

そのため、本年度の学校経営の方針を次のように定め、教育目標の達成に努める。

- ① ふるさとを大切にす特色ある学校づくりの推進  
地域の素材を生かした学習や地域の人々とふれ合う学習を通して、地域の特色やよさを理解し、地域を愛する心をもった児童の育成に努める。
- ② 夢をもち新しい自分にチャレンジする児童の育成  
児童の可能性を最大限に発揮させるために、基礎・基本となる学力・体力の向上充実を期し、基本的な生活習慣や社会性の育成を図り、自ら学び考え主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力の育成に努める。
- ③ 家庭・地域社会に根ざした開かれた学校づくりの推進  
家庭や地域社会との連携・融合を進め、ともに協力しあって児童を育成する開かれた学校づくりに努める。

#### (2) 学校の教育目標

確かな学力を身に付け、心身ともに豊かでたくましい子どもの育成

- 目指す児童像（こんな子どもに育てたい）
  - ・ 広い心で [包容力]
  - ・ 伸びる子 [向上力]
  - ・ 考える子 [創造力]
  - ・ 元気な子 [生命力]
- 目指す学校像（こんな学校で子どもを育てたい）
  - ・ 活気があり、学習環境に恵まれた美しい学校
  - ・ 教師と児童の心が通い合う楽しい学校
  - ・ 自主的で進取の気風に満ちた、開かれた学校
- 目指す教師像（こんな教師で子どもを育てたい）
  - ・ 使命感に燃え、常に研修に努める教師
  - ・ 児童の心にくい込み、指導力を高める教師
  - ・ 組織の一員として動き、ともに支え合う教師



〈運動会での棒術〉



〈地域への花の苗の配布〉

#### (3) 学校の教育的課題

- ① 郷土のよさを知り、進んで学び合う児童の育成
- ② 基礎学力の向上と自ら考え、自ら学ぶ児童の育成
- ③ よりよい人間関係づくりと表現力の向上等の社会性の育成
- ④ 体力向上と健康的な生活習慣の育成
- ⑤ 家庭・地域社会の教育力向上への協力・啓発
- ⑥ 学習環境の整備・充実

## 4 教育課程内の取組

### (1) 授業の充実

#### ① 1 単位時間における習熟の時間の確保（国語科・算数科）

昨年度からの主題研究の研究内容を継続して行うもので、1 単位時間の中に習熟を図る時間の設定をし、学習内容の確実な定着を行う。



〈少人数指導〉

#### ② 個に応じた指導の充実（少人数・習熟度別指導の充実）

少人数指導を中心に、児童の実態や単元の内容・活動場面に応じて習熟度別少人数指導を取り入れて実施する。また、算数科において小・中学校の連携を図りながら学習指導を行う。

### (2) 基礎学力の定着

#### ① 伸びる子タイムの充実（業間活動での取組）

曜日	月	火	水	木	金
内容	漢字	計算		漢字	計算

「伸びる子タイム」とは、漢字・計算力等の基礎学力の定着を目指して、全児童・全職員を挙げて取り組む時間のことである。

##### ア 漢字について

「漢字名人戦」と呼び、各学期に5級から名人までの段階を設定し、50問の漢字の書き取りを行い、全問正解で進級していく。各学期で名人合格者の表彰を行い、すべての学期で名人に合格すると「グランドチャンピオン」として表彰する。



〈漢字名人戦〉

##### イ 計算について

自分の設定した目標タイムの時間短縮を目指して、「100マス計算」を行う。

#### ② 学期末の学力定着週間の実施、充実

各学期末に学習内容の確実な定着を図るための時間を設定する。（低学年計6時間、中・高学年9時間：8月末からの2学期始業に伴う余剰時数の活用）

#### ③ 朝の読書活動の実施

月・水・金曜日の朝自習での読書とボランティアによる読み聞かせを推進している。

#### ④ 表現力の育成

集会・朝会等で感想発表の時間を設定し、作文・詩・俳句・短歌等の作品づくりも日常的に取り組んでいる。

#### ⑤ 各種テストの実施と活用

学力診断テスト（CRT）等の結果を踏まえた学習指導を行う。また、保護者にも結果を公表し、学校と家庭との連携を図っている。

## 5 教育課程外の取組

### (1) 毎日の宿題プリントの工夫

各学担当がクラスの実態や発達段階に応じた宿題プリントを作成する。プリントの内容は漢字や計算・文章問題が中心で、授業での学習内容を復習させ、確実な学力の定着を図る。

## (2) 夏季休業・冬季休業での課題プリントの工夫

長期間休業での学力向上を図るために、各学年でワークブック以外に宿題プリントを作成する。夏季休業での課題プリントは1学期に学習内容を、冬季休業中での課題プリントは1・2学期の学習内容を中心としたものにする。

## 6 保護者・家庭、地域との連携

### (1) 保護者・家庭との連携

- 学力向上月間（6月・10月・2月）の充実

家庭での学力向上に向けた取組を学期1回ずつ行う。各家庭で子どもと保護者が一緒に「100マス計算」に取り組む。（昨年度の2月から実施）家庭でしっかり学習する生活習慣を身に付けさせるねらいである。また、「家庭学習の手引き」を配布し、活用方法等もさらに啓発している。

- 各学年の「知」・「徳」・「体」の到達目標と到達度基準の公表

各学年の「知」・「徳」・「体」の到達目標と到達度基準を公表することで、学校と家庭が同じ観点・基準で児童の活動を評価していくことができるようにする。3学期の下旬に再度保護者のアンケートにより、学校の教育活動に対する学校評価を行う計画である。

- PTA学力向上対策委員会との連携

1学期に本年度の学力向上対策委員会を立ち上げて、学期1回（6月・9月・2月）に会を実施する。この会で話し合われた内容を参観日の学級懇談の中で取り上げ、各学年で家庭での学習の取組や今後のあり方について話し合っている。

- 参観日の充実（年間5回）と個人面談（9月）の実施

参観日にできるだけ児童の活動を保護者に参観してもらうために、参観授業を多く設定し（年間17単位時間）、参観週間を設定している。授業では少人数指導なども取り入れ、保護者への授業に関する理解を深めるようにする。

- 夏季休業中における家庭訪問の充実

夏季休業中に十分な時間を確保し、1学期に学校生活の様子を踏まえ、学校生活・家庭生活の在り方について話し合い、共通理解・共通実践ができるようにする。

### (2) 地域との連携

- 学社融合の推進 学校と家庭・地域が一体となった教育活動

- ・ 「やまびこトーク」～地域の方の講師による講話（業間の時間に）
- ・ 「神楽・団七踊り・棒術などの伝統芸能」～運動会や町青少年伝統芸能発表大会等の行事への積極的参加
- ・ 「花いっぱい活動」～種から育てた花の苗を、地域の方々と一緒に鉢にあげ、配布

## 7 成果と課題（次年度の取組を含む）

### (1) 成果

- 伸びる子タイム・学力定着週間・学力向上月間の設定によって、学校と家庭で基礎・基本の定着が図られ、確かな学力を身に付けさせることができた。
- PTA学力向上対策委員会や多くの参観授業を通して、学力に対する保護者への意識を高揚することができた。
- 学社融合により、さらに家庭・地域との連携が図られるようになった。

### (2) 課題

- 学力向上月間は、校外行事の少ない月に設定し、家庭でも確実に取り組めるようにする。
- 基礎的・基本的な学習内容の確実な定着とともに、応用力・思考力・判断力を高める。